

ニッポン

The Japan Financial News

2月26日 金曜日

2010年(平成22年)

発行所 東京都千代田区九段南
4-3-15 〒102-8677
日本金融通信社
電話03(3261)9971
郵便振替口座 00110-0-17505

JGAP指導員 の研修会を開催

岩手銀

【仙台】岩手銀行は2月12・13の両日、三菱商事アグリサービス、NPO法人日本GAP協会との共催で「JGAP(『日本版適正農業規範』の意味)指導員基礎研修会」を開催した。農業者のGAP認証取得に向けた具体的な支援策の一環。日本GAP協会と金融機関が連携して研修会を開催したのは全国で初めて。

当日は、県内の農業従事者ら25人が参加した。全国で初めてコマのJGAP団体承認を取得した「穂海」の丸田洋代表取締役らが指導。初日は、農薬や肥料などの農場管理、2日目は収穫と農産物取扱施設や農場経営と販売管理などの農場管理について解説。受講後、試験に合格すると指導員に登録される。

GAP 認証取得 に向けて基礎学が 岩手銀など研修会

岩手銀行（高橋真裕頭取）は12、13の両日、盛岡市中央通1丁目の本店で「JGAP指導員基礎研修会」を開き、

県内の農業者ら25人がGAP（農業生産工程管理）認証取得に向けて基礎学習や実習に取



農薬管理などJGAPの基礎を学ぶ参加者

り組んでいる。

JGAPは安全性の高い農産物を生産・出荷するための日本版管理手法。基礎研修会は三菱商事アグリサービス、日本GAP協会との共催で、金融機関が開くのは全国初。

コメのJGAP団体認証を全国で初めて取得した穗海（新潟県上越市）の丸田洋代表取締役と同サービスの小田原次洋業務企画室長が指導。初日は農薬や肥料などに関する農場管理について解説した。受講後、試験に合格すると指導員として登録される。

丸田代表取締役は

「認証取得は目的ではなく道具。安全な農産物を消費者に届ける食品事業者としての意識が必要だ」と助言した。

12、13日行われたJGAP指導員基礎研修会



う。検査する農薬の種類とサンプルは業者によつて不統一だった。GAPの生産工程管理では化学農薬以外の防除方法の検討から始め、正しい農薬の選択、農薬使用の記録、狙いを定めた的確な残留農薬検査などを行う。

員基礎研修会が12、13日、盛岡市中央通の岩手銀行本店で行われた。岩手銀行、三菱商事アグリサービス、NPO法人日本GAP協会の共催。

県内の農業生産者ら25人が受講し、同指導員を自指し農場管理などの基礎的チェック項目を学んだ。GAPは既に欧州を中心に世界88カ国に普及。日本では07年、日本GAP協会（本部・東京都、高橋政行理事長）が発足し、国の農業政策の基

本方針に、GAP導入が明記された。日本ではこれまで結果管理に基づく品質保証を行ってきた。収穫後にサンプルを抜き取り残留農薬検査を行

農業生産者ら
GAPを学ぶ
岩手銀行を会場
農業の生産工程管理
に基づく品質保証を示
すJGAP（Japan
Good Agr
icultural
Practice）日
本適正農業規範）指導

り残留農薬検査を行

証されている。岩手は「農場だけ、頑張つてもらいたい」と言つ。

GAPには管理点や適合基準に基づきそれぞれの農場に合うルール、マニュアルを作成し実践するなど、適切な農業管理とその実践が含まれる。

同協会の丸田洋指導員は「農薬は先入れ先出しにより早めに古い農薬を使うこと。農薬散布機は年一回以上整備し、使用直前での故障発見を回避することが管理点にある。散布機の絵を描き、各部品をチェックするなどの事例もある」などとアドバイスしていた。

同研修会は、通常は東京での開催。同行法人営業部の猪俣広志調査役は「25人の生産者らから受講したいという意向があり地方で初開催となった」と話していた。